

共に備え、安全な未来を 築くために



大阪市消防局長 橋口 博之

はじめに、本年1月1日に最大震度7を観測した「令和6年能登半島地震」によって、犠牲になられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。被災された方々が一日も早く平穏な暮らしを取り戻すことができるよう切に願っております。

この震災により、緊急消防援助隊として被災地へ派遣され連携して活動にあたるなど、消防の広域的な役割と国民の期待はさらに増大しており、消防本部相互の応援体制の更なる充実強化と企業・地域住民を中心とした地域防災力の向上がより一層求められる状況となっています。

自然災害に見舞われやすい我が日本において、災害から生命、身体、財産を守るためには、自助、共助、公助を有機的に連携させた防災対策が重要なことはいまでもありません。消防と地域住民が連携をとり、一体となって訓練などの防災活動を行い、地域防災力を高めていくことが求められています。大規模な災害の直後は、国民の防災意識も高まりますが、時間が経つと次第に意識は低下し、行動も続かなくなってしまうことは想像に難くありません。「災害は忘れた頃にやってくる」ことを消防が常に発信し、継続的に防災活動を続けていくことが重要になってきます。そこで、地域住民の防災意識を高め、災害発生時には、地域住民の迅速かつ的確な防災活動を導くために、地域の防災リーダーの育成が大きな課題の一つであると考えております。防災活動の様々な機会において、消防が積極的に教え育てることが重要であり、また、全ての地域住民にわかりやすい継続的な防災活動を可能とするための工夫も必要となります。

当局としましては、この震災をさらなる教訓とし、引き続き、消防機関の連携強化と、地域住民の防災力の向上に取り組んでいく所存です。

いよいよ来年には大阪・関西万博が開幕します。当局では、開催期間中の消防体制に万全を期すために、大阪・関西万博消防センター（仮称）として消防部隊を24時間配置することとしています。市内の消防署と同様に部隊を配置するほか、高さのあるパビリオン等の災害にも対応するための高所作業車も配備する予定です。

この大阪・関西万博から得られる体験は、人々にいのちを考えるきっかけを与え、他者のため、地球のために、一人ひとりが少しの努力をすることで、その重なり合い、響き合いが人を笑顔にし、ともに「いのち輝く未来社会をデザイン」することにつながると考えられています。当局も市民をはじめとする他者を思いやる心で、一人ひとりができることを積み重ねながら、大都市・大阪の安全・安心を担う消防局として、複雑多様化する災害や消防を取り巻く社会環境の変化に柔軟に対応してまいります。

これからも私たち大阪市消防局は、初代・消防局長が示した局是「明・強・敏（明るく 共に励みて 強からめ いざ立つときは敏く応えて）」を基本理念とし、これまで築き上げてきた歴史や伝統を継承しながら、市民が安心して暮らせる「災害に強いまち・安全な都市」を目指して日々、未来の地域社会に根ざした消防施策を進めてまいります。